



武道

Budō

魚住孝至

Uozumi Takashi

04

TRƯỜNG ĐẠI HỌC CÔNG NGHỆ
TRUNG TÂM THÔNG TIN T

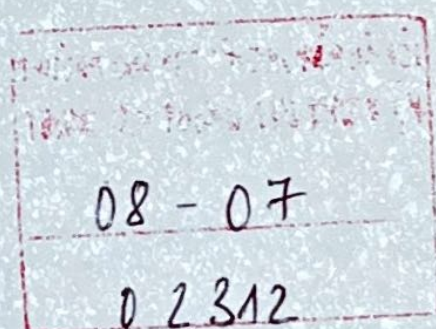


Mã sách: 080702312

日本の
伝統文化
⑥

武道

魚住孝至



山川出版社

序章 武道文化の成立基盤

先史から古代・中世

1 先史時代の武器と武術

2 日本神話における国土の統一と剣の靈威

3 飛鳥・奈良時代の律令兵士とその訓練

4 朝廷の年中行事としての武芸

5 日本独自の武道が成立する基盤

6 武士の武芸鍛錬

7 南北朝の動乱から室町幕府の隆盛

第一章 武芸流派の確立

戦国時代から江戸中期

1 武芸流派の成立——剣術・弓術・柔術の源流

【参考】中国武術のあり様——『紀效新書』を中心に

2 鉄砲の普及と天下統一への過程

3	江戸幕藩体制の成立	63
---	-----------	----

4	近世武芸の展開	71
---	---------	----

5	近世武芸の思想——宮本武蔵『五輪書』	76
---	--------------------	----

6	近世社会の発展と流派武術の華法化	87
---	------------------	----

7	兵学流派の成立と士道論・武士道論	95
---	------------------	----

8	武芸の教養化——『本朝武芸小伝』	104
---	------------------	-----

第二章	近世社会の変容と武芸の新傾向	109
	江戸後期から幕末	

1	近世社会の転換期と将軍吉宗による武芸奨励	109
---	----------------------	-----

2	新たな武芸の展開——撃剣と柔術の革新	114
---	--------------------	-----

3	寛政の改革と藩校における武術教育	122
---	------------------	-----

【参考】	朝鮮の武芸——『武藝図譜通志』の成立	126
------	--------------------	-----

4	流動化する封建社会と武芸の変容	128
---	-----------------	-----

5	撃剣の隆盛——下級武士・豪農層と試合	138
---	--------------------	-----

6	藩校での武芸教育と諸流派数と主な流派	144
---	--------------------	-----

7	天保後期の改革と西洋砲術の採用	149
---	-----------------	-----

8	幕末期の社会の大変動と剣術が果たした社会的機能	156
---	-------------------------	-----

第三章 近代武道の成立と定着 明治時代

1	近代武道の成立過程	174
2	近代武道への再編成	181
3	大日本武徳会と近代武道の定着	195
4	武道の学校体育への編入までの過程	204
5	運動文化としての武道	214

第四章 近代武道の展開過程 大正・昭和初期

1	近代剣道の確立——「大日本帝国剣道形」と指導書『剣道』	221
2	「武道」の名称への統一と近代武道の整備	225
3	競技会の隆盛——学生スポーツと天覧武道大会	229
4	武道の拡大——相撲と沖縄唐手の本土紹介	231
5	柔道の理念と海外展開	237
6	剣道の歴史と弓道の精神性を強調する流れ	242

7	戦時下の武道——昭和初期の武道	245
---	-----------------	-----

第五章 現代武道の出発 昭和中期

I 占領下の戦後改革と東西冷戦 255

1	占領軍による武道禁止令	260
2	武道の復活過程	264
3	武道連盟の設立	269
4	戦争と武道禁止令の影響	271
5	国際柔道連盟(IJF)への加盟	273

II 戦後復興から高度経済成長へ 274

1	戦後武道の展開——合気道・少林寺拳法	275
2	空手道の競技化と多様な展開	276
3	学校体育への復活——「格技」の成立	278
4	戦後武道の技の捉え方	279

5	欧米における武道の新たな展開	284
---	----------------	-----

第六章 現代武道の展開と国際化 昭和後期

I 高度経済成長 291

1	東京オリンピック大会の開催とその影響	292
2	武道の諸方面での展開	295
3	全日本空手道連盟の成立とフルコンタクト空手の展開	297
4	国際剣道連盟と世界空手連合	298

II 日本の経済大国化と国際化の進展 300

1	日本武道協議会と日本古武道協会	301
2	国際柔道連盟による柔道の変容	302
3	武道の国際化の進展	303
4	空手道をめぐる問題——指定形制定と沖縄空手、テコンドーの五輪種目化	306
5	武道文化の見直し——武道の研究と『武道憲章』	307

6	武道の活況の中で——武道文化伝承の危うさ	310
---	----------------------	-----

第七章 グローバル時代における武道 平成時代から現在へ

I 東西冷戦の終結とグローバル時代の到来 312

1	国内の武道状況——学校「武道」・世代交代・武道への関心・総合格闘技	313
2	国際武道連盟の展開状況	314
3	柔道の形競技	316
4	剣道における見直し——木刀による稽古法と「剣道指導の心構え」	319
5	空手道からKARATEへ	322
6	柔道からJUDOへ——国際柔道連盟における日本の存在の変化	324

II 武道の現在——直面する諸問題と新たな模索 二〇一〇年代から現在へ 325

1	武道人口の減少	326
2	柔道の事故と部活動指導者について	331
3	公認指導者資格制度	331

【参考】 フランスの指導者資格制度とドイツの少年育成プログラム 333

4 「柔道MIND運動」 334

5 中学校体育における武道の必修化 335

6 二〇二〇年東京オリンピック大会について 336

終章 伝統文化としての武道の可能性 340

1 武道の修行の階梯——ヘリゲル『弓と禅』に即して 341

2 弓道修行の過程——梅路見鸞「行道一覽」 357

3 近世の剣術・柔術における身心鍛練の道 366

4 伝統文化としての武道の可能性 382

主要参考文献／写真提供一覽／武道関係略年表／人名索引

凡例

- 一、引用は原典に即すが、旧字体を新字体とし、句点・読点・振り仮名を補った。片仮名を平仮名とした。
- 二、原典が漢文体の場合は、書き下し文で引用し、最後に原文漢文と表記した。
- 三、年号表記は、元号表記を原則として適宜（ ）で西暦も併記した。序章の概略と外国における事及び国際的な事象は西暦表記とした。
- 四、用語は、中世までは「武術」とし、流派が成立した近世は「武芸」としたが、個々の武芸は剣術、弓術などとした。近代になって武術と武道が区別されて以降は「武道」とした。
- 五、武芸者、武道家の名前は、改名した場合でも一般的と思われる名で統一して表記した。
- 六、主な武芸者・武道家には生没年を、主な武芸書・武道書には成立・刊行年を、西暦表記した。
- 七、武芸・武道の特有用語には初出箇所には振り仮名を入れた。「形」^{かた}「捕」^{とり}「打込み」^{うちこみ}「引分け」^{ひきわけ}など。
- 八、巻末に主要参考文献、武道関係略年表、人名索引を付した。